

招聘[×](ショウヘイ) テイチョウ丁重な態度で人を招くこ

と。今は、“招待”を使うことが多い。

定法(ジヨウホウ) 決まったおきて。いつも

そうするに決まっている方法。

消耗(ショウモウ) 使って減ること。また、減

らすこと。もとは“ショウコウ”だが、今はこれが慣用されている。

従容(ショウヨウ) 落ち着いた様子。 例

従容として死につく

擾乱[×](ジヨウラン) 擾はみだす意。入り乱れ

ること。また騒ぐこと。

涉獵(ショウリョウ) 涉は川を歩いて渡ること。

獵のために川を渡ってあちこちと探り
回ること。広く書物を読みあさることに
用いる。

所轄(ショカツ) 管轄する範囲。また、管轄

と同じようにも使う。

贖罪[×](ショクザイ) 罪をあがなうこと。キリスト

教で、キリストがその死により全人類
を神に対する罪の状態からあがなっ
た行為を言う。

殖産(ショクサン) 殖はふやす意。生産物を
ふやすこと。また、産業を盛んにする
こと。財産をふやすこと。

辱知(ジョクチ) 知をかたじけなくするの意
で、自分がその人と知り合いであるこ
とのへり下った言い方。

囑望(ショクボウ) 将来に望みをかけるこ
と。

属目(ショクモク) 気をつけて見ること。

目に触れること。属は触の意。

書契(ショケイ) 文字で書かれたもの、また
文字。契は刀で刻む^{きざ}意。最古の漢字

は、亀甲・獣骨に刻まれたもので、こ
れを“契文”また“甲骨文字”と言う。

緒言(ショゲン) 前書き。緒は糸口。物事の
初めの意。“ショゲン”は慣用読み。

所作(ショサ) 作は行ない。行なう所、つま
り、しわざ。ふるまい。身のこなし。

書肆[×](ショシ) 肆は施、物を並べる意で、店。
書店。本屋。

食客(ショッカク) 一家に客の待遇で養わ
れている人。俗に“居候(いそうろ
う)”。

所望(ショモウ) 望む所、望みとするもの。

緒論(ショロン) 本論にはいる準備のため
の説明をした部分。序論ともいう。“チ
ョロン”は慣用読み。

白拍子(しらビョウシ) 平安朝末期の歌舞
の一種。また、それを舞う遊女。